

お忙しくても、約 2 分間で読めます

山内公認会計士事務所

ハートフル・ワード (心からの言葉)

TEL 098-868-6895

FAX 098-863-1495

経営者への活きた言葉

与えられた義務に徳高く生きる (マルクス・アウレリウス) 池田 雅之 (早稲田大学名誉教授)

1. ローマの「五賢帝」最後の皇帝であり、哲学者でもあった、マルクス・アウレリウス (121~180 年) の言葉を一冊にまとめた「自省録」(岩波文庫)があります。彼の言葉の一語一語が自分の心の深いところに響き、まるで自分の魂が育てられる不思議な感覚を覚えます。
 2. 「未来というものは、来たるべきときに訪れてくるものだから、未来を憂うのは止めなさい。いま現在に真向かっているのと同じ気持ちで、未来に対処すればよいのだ。人格を完成させるには、一日一日をあたかもその日が最期の日であるかのように、激しく感情を高ぶらせることなく、かといって無感情でもなく、誠実に過ごすことである」。
- (解説) 当時のローマには、キリスト教などの宗教の影響がそれほど及んでいなかったもので、マルクス帝も「現世で善いことをすれば、来世で幸せになれる」といったことは説いていません。彼がひたすら書き綴ったのは、絶えず自らを省み、与えられた義務に己を尽くし、徳高く生きること。そして過去や未来のことにくよくよせず、いまを一生懸命生きること。
3. 「人間は正しくあってこそ、幸せになれる。正しくあるとは、同胞である人間に対して親切であること。感覚がもたらす衝動を超越すること。目に映る世界に対して、正しい判断を下すこと。そして、宇宙の本質、およびその偉大な営みに学ぶことである」。

(解説) 大宇宙や大自然にあまねく有在する秩序、理性に従い、徳高く生きること。

(参考:「致知」2017 年 7 月 10 日号)

ワンポイント経営アドバイス

イノベーションを起こすオープンな組織

中山 泰男 (セコム社長)

1. 昨年 5 月社長就任後、すぐに社員に対してメッセージを打ち出しました。1 つ目は従業員満足を原点にした全員経営で持続的成長を図ること。2 つ目は「トンネルの先の光」という言葉ですが、経営者が大きな方向を示すこと。3 つ目はお客様の目に見えているニーズだけでなく、その後ろにある潜在的ニーズである「まだ見ぬ安心」を探り出して先読みして手を打っていくことです。
2. セコムには「事業と運営の憲法」という理念があります。ここに「セコムの行う社会サービスシステムは、高度な技術に立脚した革新的最良のものでなければならぬ」と書いています。つまり、必要なのはイノベーションです。それを起こすために自由闊達なコミュニケーションがほとぼしる、オープンな組織を目指しています。

(参考:「日経ビジネス」:2017 年 8 月 7・14 日号)

経営者のための危機管理

書店消滅を食い止める

1. 最近、東京都心部で大型書店の撤退が相次いでいる。中小書店も次々に消えている。書店がなくなれば、商店街からも足が遠のく。書店の消滅は、その先に地域の衰退が待つ。書店消滅の理由は、一つはスマートフォンの台頭だ。スマホの台頭からわずか 10 年でこれだけ変わったのだから、何もしなければ 2025 年頃はもっとひどいことになる。
2. 書店が生き残るためには、一つは学習意欲が高く、対人コミュニケーション力の高い人たちを顧客としてつかまえることだ。60 歳代のシニアにはそうした人が多い。テーマは教養でも、健康づくりでもよい。優良情報を選んで、自分の仲間と情報交換する場に書店を変えることが一案だ。要するに、書店が本のユーザーにもっと能動的に訴えるサービスを加えていかないと、生存のための付加価値を創造できない。

(参考:「週刊東洋経済」2017 年 7 月 29 日号)

古典に学ぶ

士魂商才

「昔、菅原道真は和魂漢才ということをやった。これはおもしろいことと思う。これに対して私は常に士魂商才ということをやったのである。士魂商才とは、人間の世の中に立つには、武士的精神の必要であることは無論であるが、しかし、武士的精神のみに偏して商才というものがなければ、経済の上からも自滅を招くようになる。ゆえに士魂にして商才がなければならぬ」 (参考: 渋沢栄一「論語と算盤」: 図書刊行会)